

9.2 生物・生態系

9.2.1 現況調査

(1) 調査事項及びその選択理由

調査事項及びその選択理由は、表 9.2-1 に示すとおりである。

表 9.2-1 調査事項及びその選択理由

調査事項	選択理由
①生物の状況 ②生育・生息環境 ③生態系の状況 ④土地利用の状況 ⑤法令等による基準等 ⑥東京都等の計画等の状況	事業の実施に伴い陸上植物の植物相及び植物群落の変化、陸上動物の動物相及び動物群集の変化、生育・生息環境の変化及び生態系の変化が考えられることから、計画地及びその周辺について、左記の事項に係る調査が必要である。

(2) 調査地域

調査地域は、図 9.2-1 に示す計画地及びその周辺とした。

(3) 調査方法

1) 生物の状況

調査は、既存資料調査及び現地調査による方法によった。

ア. 陸上植物の状況

調査方法は、表 9.2-2 に示すとおりである。

表 9.2-2 陸上植物の調査方法

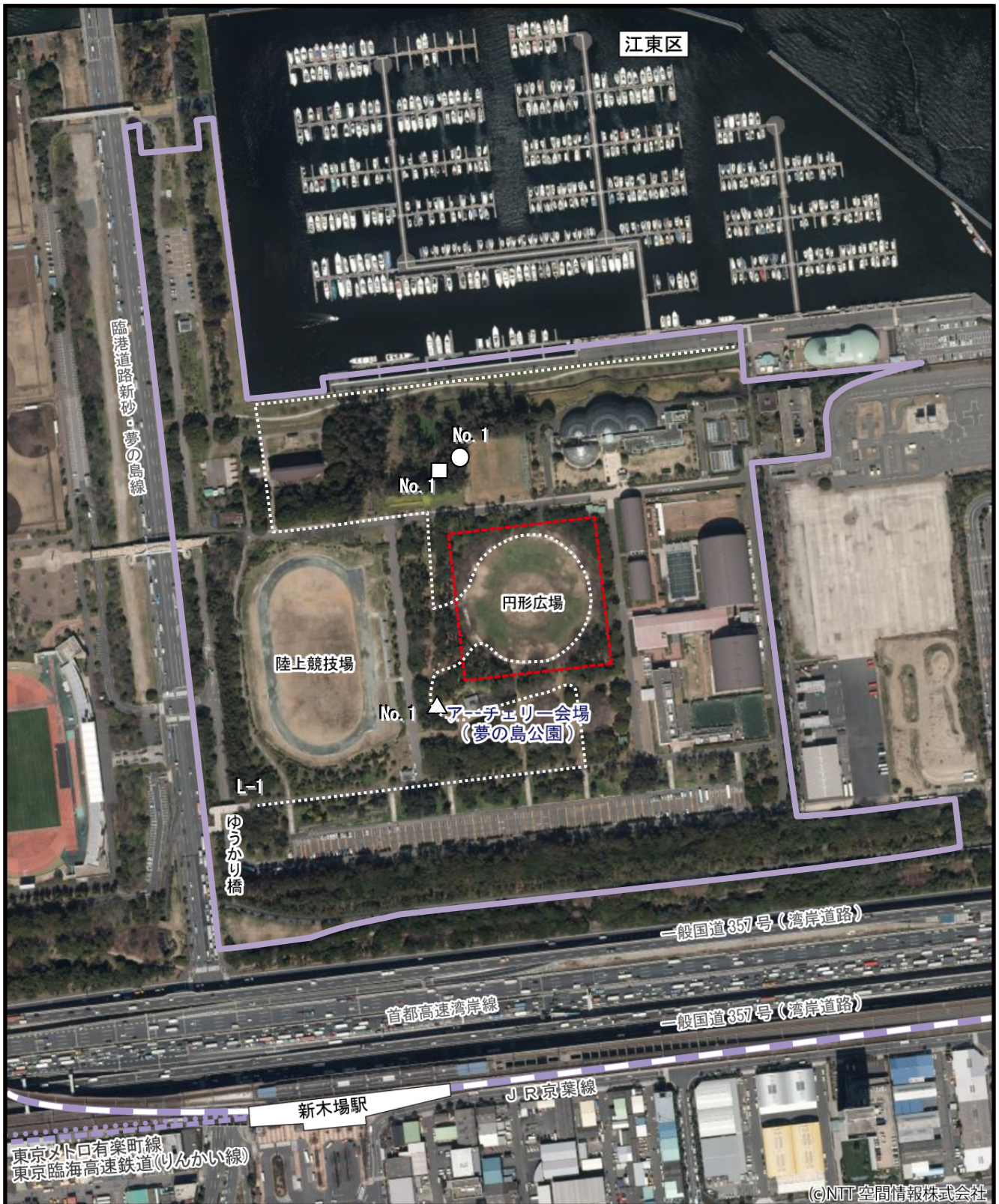
調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・植物相 ・植物群落	計画地及びその周辺とした。 (図 9.2-1 参照)	・植物相 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・植物群落 夏の二季とした。	・植物相 任意観察法 ・植物群落 現地踏査、航空写真の判読及び既存資料の整理により、植生図を作成した。

イ. 陸上動物の状況

調査方法は、表 9.2-3 に示すとおりである。










表 9.2-3 陸上動物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・哺乳類 ・鳥類 ・両生類・は虫類 ・昆虫類 ・クモ類	計画地及びその周辺及び以下の地点とした。 (図 9.2-1 参照) ・哺乳類 1 地点とした。 ・鳥類 1 地点、1 ラインとした。 ・昆虫類(トラップ) 1 地点とした。	・哺乳類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・鳥類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・両生類・は虫類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・昆虫類 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・クモ類 春、初夏、夏、秋の四季とした。	・哺乳類 任意観察法、トラップ法、夜間調査(バットディテクター)による。 ・鳥類 任意観察法、定点観察法、ラインセンサス法による。 ・両生類・は虫類 任意観察法による。 ・昆虫類 任意観察法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法による。 ・クモ類 任意観察法による。



©NITF空間情報株式会社

凡例

- | | | | |
|---|------------------|---|--------------------|
|  | 計画地 |  | 任意観察法調査範囲 |
|  | JR |  | 哺乳類トラップ調査地点 (No.1) |
|  | 東京臨海高速鉄道 (りんかい線) |  | 鳥類定点調査地点 (No.1) |
|  | 地下鉄 |  | 鳥類ラインセンサス (L-1) |
| | |  | 昆虫類トラップ調査地点 (No.1) |



Scale 1:5,000



図 9.2-1 生物・生態系調査地点

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

調査は、「地形図」(国土地理院)、「土地条件図」(平成 25 年 8 月 国土地理院)の既存資料の整理によった。

イ. 植生等の状況

調査は、「自然環境保全基礎調査 植生調査」(平成 11 年～ 環境省自然環境局生物多様性センター)の既存資料の整理によった。また、現地調査により、計画地及びその周辺の植生の状況を確認した。調査は、平成 26 年 8 月 6 日に実施した。

ウ. 大気環境

調査は、既存資料を用い、計画地周辺又は最も近傍に位置する一般環境大気測定局(以下「一般局」という。)3 地点、自動車排出ガス測定局(以下「自排局」という。)1 地点における調査結果を整理した。

調査地点は、表 9.2-4 及び図 9.2-2 に示すとおりである。

表 9.2-4 既存資料調査地点(大気質の状況)


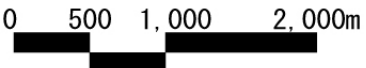
区分	地点番号	測定局名	所在地	設置主体	調査期間
一般環境 大気測定局	No. 1	江戸川区南葛西 測定局	江戸川区南葛西 1-11-1	東京都	平成26年4月1日 ～平成27年3月31日
	No. 2	江東区豊洲 測定局	江東区豊洲4-11-18	江東区	
	No. 3	江東区東陽 測定局	江東区東陽4-11-28		
自動車排出ガス 測定局	No. 4	三ツ目通り辰巳 測定局	江東区辰巳1-9地先	東京都	

注) 地点番号は、図 9.2-2 に対応する。

出典:「大気汚染結果ダウンロード」(平成 27 年 10 月 22 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html



<p>凡 例</p> <p> 計画地 区界 </p>		<p> ● 一般環境大気測定局 (No.1 ~ 3) ▲ 自動車排出ガス測定局 (No.4) </p>	<p>  Scale 1:50,000  </p>
<p>図 9.2-2 大気汚染常時監視測定局 (既存資料調査)</p>			

エ. 地域社会とのつながり

調査は、当該地域の利用状況において、動植物の生育・生息環境の有する機能との関わりの整理によった。

3) 生態系の状況

調査は、現地調査により確認された動植物の生物相互の関わりの整理によった。

4) 土地利用の状況

調査は、「東京の土地利用 平成 23 年東京都区部」（平成 25 年 5 月 東京都都市整備局）等の既存資料の整理によった。

5) 法令等による基準等

調査は、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成 14 年法律第 88 号）等の法令の整理によった。

6) 東京都等の計画等の状況

調査は、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」（平成 27 年 3 月 東京都）、「植栽時における在来種選定ガイドライン」（平成 26 年 5 月 東京都）の計画等の整理によった。

(4) 調査期間

陸上動植物の現地調査は、表 9.2-5 に示す時期に実施した。

表 9.2-5 調査時期

調査地域	調査項目		調査時期
夢の島公園	陸上植物の 状況	植物相	春季：平成 26 年 5 月 1 日 初夏季：平成 26 年 5 月 21 日 夏季：平成 26 年 7 月 24 日 秋季：平成 26 年 10 月 3, 16 日
		植物群落	夏季：平成 26 年 8 月 6 日
	陸上動物の 状況	哺乳類	秋季：平成 25 年 11 月 26, 27 日 冬季：平成 26 年 1 月 22, 23 日 春季：平成 26 年 5 月 14~16 日 夏季：平成 26 年 8 月 14, 15 日
		鳥類	秋季：平成 25 年 11 月 27 日 秋季：平成 26 年 9 月 22 日 冬季：平成 26 年 1 月 22 日 春季：平成 26 年 4 月 30 日 初夏季：平成 26 年 6 月 3 日 夏季：平成 26 年 8 月 5 日
		は虫類	秋季：平成 25 年 11 月 27 日 冬季：平成 26 年 1 月 22 日 春季：平成 26 年 5 月 13 日 初夏季：平成 26 年 6 月 30 日 夏季：平成 26 年 8 月 15 日
		両生類	秋季：平成 25 年 11 月 27 日 冬季：平成 26 年 1 月 22 日 春季：平成 26 年 5 月 13 日 初夏季：平成 26 年 6 月 30 日 夏季：平成 26 年 8 月 15 日
		昆虫類	秋季：平成 25 年 11 月 27 日 秋季：平成 26 年 10 月 7, 8 日 春季：平成 26 年 5 月 21, 22, 27, 28 日 初夏季：平成 26 年 6 月 30 日, 7 月 1 日 夏季：平成 26 年 8 月 5, 6 日
		クモ類	秋季：平成 25 年 11 月 27 日 秋季：平成 26 年 10 月 7, 8 日 春季：平成 26 年 5 月 21, 22, 27, 28 日 初夏季：平成 26 年 6 月 30 日, 7 月 1 日 夏季：平成 26 年 8 月 5, 6 日

(5) 調査結果

1) 生物の状況

ア. 陸上植物の状況

(ア) 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-6(1)～(6)に示すとおり 97 科 392 種の植物が確認された。

調査範囲は、夢の島公園とその周辺の区域である。夢の島公園内では夢の島熱帯植物館や BumB 東京スポーツ文化会館等の施設のほかに、陸上競技場やシバ草地の園地と樹木植栽地が広がる。植栽地には高さ 20m 程度に達するユーカリ類がのほか、マテバシイ、アキニレ、ケヤキ、クスノキ、オオシマザクラ、トウネズミモチ等の高木、ヤブツバキ、ハマヒサカキ、モッコク、トベラ、シャリンバイ、オオムラサキ、イヌツゲ等の低木類が植栽されており、林床にはハコベホオズキが繁茂しているほか、ドクダミやハイキンボウゲが繁茂している箇所も見られる。

表 9.2-6(1) 植物確認種

No.	科名	和名
1	トクサ科	スギナ
2	ツルシダ科	タマシダ
3	オシダ科	ベニシダ
4	メシダ科	イヌワラビ
5	ソテツ科	ソテツ
6	マツ科	クロマツ
7	スギ科	メタセコイヤ
8		ラクウショウ
9	ヒノキ科	カイツカイブキ
10		ハインズ
11		コノテガシワ
12	ヤマモモ科	ヤマモモ
13	ヤナギ科	セイヨウハコヤナギ
14		シダレヤナギ
15	カバノキ科	ハンノキ
16		イヌシデ
17	ブナ科	クリ
18		スダジイ
19		マテバシイ
20		シラカシ
21		ウバメガシ
22		コナラ
23	ニレ科	ムクノキ
24		エノキ
25		アキニレ
26		ケヤキ
27	クワ科	ヒメコウゾ
28		イチジク
29		イヌビワ
30		ホソバイヌビワ
31		トウグワ
32		ヤマグワ
33	イラクサ科	カラムシ
34	タデ科	イヌタデ
35		ツルドクダミ
36		イタドリ
37		スイバ

表 9.2-6(2) 植物確認種

No.	科名	和名
38	(タデ科)	アレチギシギシ
39		ナガバギシギシ
40		ギシギシ
41		エゾノギシギシ
42	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ
43	オシロイバナ科	オシロイバナ
44	スベリヒユ科	スベリヒユ
45	ナデシコ科	ノミノツヅリ
46		オランダミミナグサ
47		ミミナグサ
48		イトツメクサ
49		キヌイトツメクサ
50		ツメクサ
51		シロバナマンデマ
52		ウシハコベ
53		コハコベ
54		ミドリハコベ
55		イヌコハコベ
56	アカザ科	シロザ
57		アリタソウ
58		コアカザ
59	ヒユ科	ヒカゲイノコズチ
60		ヒナタイノコズチ
61	モクレン科	モクレン
62		コブシ
63	マツバサ科	サネカズラ
64	クスノキ科	クスノキ
65		ゲッケイジュ
66		タブノキ
67	キンボウゲ科	センニンソウ
68		ケキツネノボタン
69		ハイキンボウゲ
70	メギ科	ヒイラギナンテン
71	アケビ科	アケビ
72	ツツラフジ科	アオツツラフジ
73	ドクダミ科	ドクダミ
74	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ
75	ツバキ科	ヤブツバキ
76		サザンカ
77		ハマヒサカキ
78		モッコク
79	オトギリソウ科	ビヨウヤナギ
80	ケシ科	ムラサキケマン
81		タケニグサ
82		ナガミヒナゲシ
83	アブラナ科	セイヨウアブラナ
84		ナズナ
85		タネツケバナ
86		ミチタネツケバナ
87		マメグンバイナズナ
88		ハマダイコン
89		イヌガラシ
90		スカシタゴボウ
91		イヌカキネガラシ
92		マンサク科
93	イスノキ	
94	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ
95	ユキノシタ科	アジサイ
96		ユキノシタ
97	トベラ科	トベラ
98	バラ科	ヘビイチゴ
99		ヤブヘビイチゴ
100		ビワ
101		ヤマブキ
102		セイヨウバクチノキ
103		カナメモチ
104		ツルキンバイ
105		サトザクラ
106		オオシマザクラ
107		ウメ
108		イトザクラ
109		ソメイヨシノ
110		トキワサンザシ
111		カザンデマリ
112		シャリンバイ
113		ノイバラ
114	クサイチゴ	

表 9.2-6(3) 植物確認種

No.	科名	和名
115	(バラ科)	ナワシロイチゴ
116		コデマリ
117		シモツケ
118		ユキヤナギ
119	マメ科	デイゴ
120		ヤハズソウ
121		メドハギ
122		クズ
123		タンキリマメ
124		ハリエンジュ
125		エンジュ
126		コメツブツメクサ
127		ベニバナツメクサ
128		ムラサキツメクサ
129		シロツメクサ
130		ヤハズエンドウ
131		スズメノエンドウ
132		フジ
133	カタバミ科	イモカタバミ
134		カタバミ
135		アカカタバミ
136		ムラサキカタバミ
137		オッタチカタバミ
138	フウロソウ科	アメリカフウロ
139	トウダイグサ科	エノキグサ
140		アブラギリ
141		コニシキソウ
142		アカメガシワ
143		ナンキンハゼ
144	ユズリハ科	ユズリハ
145		ヒメユズリハ
146	ニガキ科	シンジュ
147	ウルシ科	ヌルデ
148		ハゼノキ
149	カエデ科	トウカエデ
150		ウリカエデ
151		イロハモミジ
152	トチノキ科	トチノキ
153	モチノキ科	イヌツゲ
154		モチノキ
155		タラヨウ
156		クロガネモチ
157	ニシキギ科	ツルウメモドキ
158		ニシキギ
159		コマユミ
160		マサキ
161		マユミ
162	ブドウ科	ノブドウ
163		ヤブガラシ
164		ツタ
165		エビヅル
166	アオイ科	フヨウ
167		ムクゲ
168	アオギリ科	アオギリ
169	ジンチョウゲ科	ジンチョウゲ
170	グミ科	ツルグミ
171		ナワシログミ
172	ウリ科	カラスウリ
173		キカラスウリ
174	ミソハギ科	サルスベリ
175	フトモモ科	ブラシノキ
176		Eucalyptus 属
177	アカバナ科	メマツヨイグサ
178		コマツヨイグサ
179		ユウゲショウ
180		ヒルザキツキミソウ
181	ミズキ科	アオキ
182		アメリカヤマボウシ
183	ウコギ科	カクレミノ
184		ヤツデ
185		セイヨウキヅタ
186		キヅタ
187	セリ科	マツバゼリ
188		ツボクサ
189		ノランジン
190		ノチドメ
191		オオチドメ

表 9.2-6(4) 植物確認種

No.	科名	和名
192	(セリ科)	チドメグサ
193		ヒメチドメ
194		セリ
195		オヤブジラミ
196	パパイア科	パパイア
197	ザクロ科	ザクロ
198	ツツジ科	ドウダンツツジ
199		アセビ
200		サツキ
201		ヤマツツジ
202		オオムラサキ
203	サクランソウ科	コナスビ
204	カキノキ科	カキノキ
205	モクセイ科	チョウセンレンギョウ
206		レンギョウ
207		ネズミモチ
208		トウネズミモチ
209		イボタノキ
210		オリーブ
211		キンモクセイ
212		ヒイラギモクセイ
213	キョウチクトウ科	キョウチクトウ
214	ガガイモ科	ガガイモ
215	アカネ科	ヤエムグラ
216		ヘクソカズラ
217		ハクチョウゲ
218	ヒルガオ科	コヒルガオ
219		ヒルガオ
220		カロリナアオイゴケ
221		マルバルコウ
222		アサガオ
223		ムラサキ科
224	クマツヅラ科	アレチハナガサ
225	シソ科	キランソウ
226		セイヨウキランソウ
227		トウバナ
228		イヌトウバナ
229		ホトケノザ
230		ヒメオドリコソウ
231		マルバハッカ
232		アカジソ
233		アオジソ
234		ナス科
235	ハコベホオズキ	
236	ワルナスビ	
237	ヒヨドリジョウゴ	
238	イヌホオズキ	
239	アメリカイヌホオズキ	
240	ゴマノハグサ科	ツタバウンラン
241		マツバウンラン
242		ムラサキサギゴケ
243		トキワハゼ
244		ビロードモウズイカ
245		タチイヌノフグリ
246		フラサバソウ
247		ムシクサ
248		オオイヌノフグリ
249	ノウゼンカズラ科	キリ
250	ハマウツボ科	ヤセウツボ
251	オオバコ科	オオバコ
252		ヘラオオバコ
253		タチオオバコ
254	スイカズラ科	ハナツクバネウツギ
255		スイカズラ
256		サンゴジュ
257		ハコネウツギ
258	キキョウ科	ヒナキキョウソウ
259	キク科	アタクサ
260		オオアタクサ
261		ヨモギ
262		ホウキギク
263		アメリカセンダングサ
264		コセンダングサ
265		トキンソウ
266		ローマカミツレ
267		アメリカオニアザミ
268		アレチノギク

表 9.2-6(5) 植物確認種

No.	科名	和名
269	(キク科)	オオアレチノギク
270		ハルシャギク
271		マメカミツレ
272		ベニバナボロギク
273		アメリカタカサブロウ
274		ダンドボロギク
275		ヒメムカシヨモギ
276		ハルジオン
277		ツワブキ
278		ハキダメギク
279		ハハコグサ
280		チチコグサ
281		セイタカハハコグサ
282		チチコグサモドキ
283		ウラジロチチコグサ
284		キクイモ
285		オオヂシバリ
286		ノニガナ
287		イワニガナ
288		カントウヨメナ
289		アキノノゲシ
290		ヤブタビラコ
291		フキ
292		ノボロギク
293		セイタカアワダチソウ
294		オニノゲシ
295		ノゲシ
296		ヒメジョオン
297		シロバナタンポポ
298		セイヨウタンポポ
299		アイノコセイヨウタンポポ
300	カントウタンポポ	
301	オニタビラコ	
302	ユリ科	ノビル
303		オニユリ
304		ヒメヤブラン
305		ヤブラン
306		ノシラン
307		ジャノヒゲ
308		ホソバオオアマナ
309		リュウゼツラン科
310	ヒガンバナ科	タマスダレ
311	ヤマノイモ科	ヤマノイモ
312		オニドコロ
313	アヤメ科	ニワゼキショウ
314		オオニワゼキショウ
315	イグサ科	クサイ
316		スズメノヤリ
317	ツユクサ科	マルバツユクサ
318		ツユクサ
319		シロバナツユクサ
320		ヤブミョウガ
321		イネ科
322	カモジグサ	
323	メリケンカルカヤ	
324	カラスムギ	
325	スホウチク	
326	コバンソウ	
327	ヒメコバンソウ	
328	イヌムギ	
329	キツネガヤ	
330	ヒゲナガスズメノチャヒキ	
331	ギョウギシバ	
332	カモガヤ	
333	メヒシバ	
334	アキメヒシバ	
335	イヌビエ	
336	ヒメイヌビエ	
337	オヒシバ	
338	カゼクサ	
339	オニウシノケグサ	
340	ムギクサ	
341	ケナシチガヤ	
342	チガヤ	
343	ネズミムギ	
344	ホソムギ	
345	ヒメアシボン	

表 9.2-6(6) 植物確認種

No.	科名	和名	
346	(イネ科)	オギ	
347		ススキ	
348		ケチヂミザサ	
349		コチヂミザサ	
350		スカキビ	
351		オオクサキビ	
352		シマスズメノヒエ	
353		キシユウスズメノヒエ	
354		アメリカスズメノヒエ	
355		タチスズメノヒエ	
356		チカラシバ	
357		ヨシ	
358		アズマネザサ	
359		ミゾイチゴツナギ	
360		タマミゾイチゴツナギ	
361		スズメノカタビラ	
362		オオイチゴツナギ	
363		ナガハグサ	
364		イチゴツナギ	
365		オオスズメノカタビラ	
366		タマオオスズメノカタビラ	
367		ヒエガエリ	
368		クマザサ	
369		アキノエノコログサ	
370		キンエノコロ	
371		エノコログサ	
372		オオエノコロ	
373		オカメザサ	
374		セイバンモロコシ	
375		ネズミノオ	
376		シバ	
377		ヤシ科	カナリーヤシ
378			シュロ
379		サトイモ科	ウラシマソウ
380			カラスビシャク
381		カヤツリグサ科	メアオスゲ
382			マスクサ
383		ナキリスゲ	
384		アオスゲ	
385		ノゲヌカスゲ	
386		ヒメクグ	
387		メリケンガヤツリ	
388		ショクヨウガヤツリ	
389		カヤツリグサ	
390		ハマスゲ	
391	カンナ科	ハナカンナ	
392	ラン科	シラン	
計	97 科	392 種	

(イ) 注目される植物種

確認された植物のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物 I（維管束植物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される植物種として抽出した結果、表 9.2-7 に示す 5 種が該当した。

注目される植物種の生態及び確認状況は、表 9.2-8 に示すとおりである。


表 9.2-7 注目される植物

No.	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
			①	②	③	④
1	カバノキ科	ハンノキ				VU
2	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ				VU
3	マメ科	タンキリマメ				VU
4	アカネ科	ハクチョウゲ			EN	
5	ラン科	シラン			NT	
計	5 科	5 種	0 種	0 種	2 種	3 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物 I（維管束植物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
EN：絶滅危惧 IB 類 NT：準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
VU：絶滅危惧 II 類

表 9.2-8 注目される植物の生態及び確認状況

<p>【種名】：ハンノキ 【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島 【形態】：落葉高木。湿地や湿原に生育する。 【確認状況】：春季、初夏、夏季、秋季に、調査範囲南部に位置する緑道（計画地外）にある人工水路跡の縁に植栽された個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ウマノズグサ 【分布】：本州、四国、九州、西南諸島 【形態】：つる性の多年草。山野に生育する。 【確認状況】：春季にクロマツ林内（計画地外）、夏季には駐車場脇植込み周辺の芝地（計画地外）に点在している個体が確認された。また、秋季に定期的に草刈りされた緑地法面（計画地外）で確認された。</p>	
<p>【種名】：タンキリマメ 【分布】：本州(関東以西)、四国、九州、南西諸島 【形態】：つる性の多年草。海岸や平地から低山地の草原、林縁などに生育する。 【確認状況】：夏季に調査範囲のマリーナ南側の位置するユーカリ林の林縁部（計画地外）で確認された。</p>	
<p>【種名】：ハクチョウゲ 【分布】：中国産でよく栽培され、長崎県では野生化している。 【形態】：多くの細い枝を分枝して横に広がる。高さ 50～100cm の常緑小低木。花は 5～7 月。 【確認状況】：夏季、秋季に、調査範囲北部の公園駐車場内に造成された緑地（計画地外）に植栽された個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：シラン 【分布】：本州中南部～琉球、中国（本土・台湾）に分布する。 【形態】：日当たりのよい湿り気のある斜面にはえ、花期は 4～5 月。 【確認状況】：初夏、秋季に、マリーナ南側に位置するユーカリ林内の歩道脇（計画地外）で確認された。</p>	

注) 分布及び形態は、「日本の野生植物 木本Ⅰ」(平成元年 2 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 木本Ⅰ」(平成元年 2 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅰ」(昭和 57 年 1 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅱ」(昭和 57 年 3 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅲ」(昭和 56 年 10 月 (株)平凡社) による。

(ウ) 植物群落

植生調査結果を基に計画地及びその周辺に分布する植物群落等を区分した結果は、表 9.2-9 に示すとおりである。

調査地域は、一年生草本群落が 2 区分、多年生草本群落が 5 区分、単子葉草本群落が 2 区分、タケ・ササ群落が 1 区分、木本群落 が 5 区分、人工構造物や開放水面等が 4 区分、計 19 区分に分類された。

表 9.2-9 植生区分

植生区分	群落名	概要
一年生草本群落	メヒシバ-エノコログサ群落	メヒシバやエノコログサが優占するほか、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ヨモギ、コセンダングサ等が混生する。
	ヒメムカシヨモギ-オオアレチノギク群落	造成地や公園内の緑地等に成立する高茎草本群落で、ヒメムカシヨモギやオオアレチノギクが優占するほか、メマツヨイグサやアオカモジグサ等が混生する。
多年生広葉草本群落	ドクダミ群落	夢の島公園の植栽地に見られた低茎草本群落。ドクダミが優占し、ヤブガラシ、キカラスウリ、ヒナタノコズチ等が混生する。
	セイタカアワダチソウ群落	セイタカアワダチソウが優占するほか、ヨモギやススキ、コセンダングサ等が混生する。
	カゼクサ-オオバコ群落	ギョウギシバやシロツメクサが優占するほか、オオバコ、ヘラオオバコ、ムラサキツメクサ、ヨモギ等が混生する。
	ハイキンポウゲ群落	夢の島公園の植栽地に見られた低茎草本群落。ハイキンポウゲが優占し、ハコベホオズキ、ヤブガラシ、ヘクソカズラ、ヒナタイノコズチ等が混生する。
	ハコベホオズキ群落	夢の島公園の植栽地に見られた低茎草本群落。ハコベホオズキが優占し、セイタカアワダチソウ、ヤブガラシ、ツユクサ、ヒナタイノコズチ等を覆っている。
単子葉草本群落	シバ群落	シバが優占する低茎草本群落で、公園の広場やグラウンドである。シロツメクサやオオバコ、ヘラオオバコ、ヒメチドメ等が混生する。
	チガヤ群落	チガヤが優占するほか、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、ムラサキツメクサ、ヤブガラシ等が混生する。
タケ・ササ群落	オカメザサ群落	夢の島公園の園路脇等に見られる緑地帯で、オカメザサが植栽されている。
木本群落	植栽樹林群 (常緑広葉)	スタジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群 (落葉広葉)	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群 (常緑針葉)	クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群 (落葉針葉)	ラクウショウやメタセコイア、イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群 (混交)	各種の樹木が混生して優占種が判別できない植栽樹群。
その他	畑	夢の島総合運動公園内の市民農園、夢の島公園内の耕作地。各種野菜類のほか、花卉花木も栽培されている。
	人工構造物	土地利用が建築物等のもの。
	道路	土地利用が道路のもの。
	開放水面	運河、海域。

イ. 陸上動物の状況

(ア) 哺乳類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-10 に示すとおり 2 目 2 科 2 種の哺乳類が確認された。

春季及び夏季に夜間調査でヒナコウモリ科の飛翔が確認されたほか、冬季にハクビシンが痕跡（糞）により確認された。

表 9.2-10 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 25 年度		平成 26 年度	
				秋季	冬季	春季	夏季
1	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科			○	○
2	ネコ目	ジャコウネコ科	ハクビシン		○		
計	2 目	2 科	2 種	0 種	1 種	1 種	1 種

b. 注目される種

確認された哺乳類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト ほ乳類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種はなかった。

(イ) 鳥類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-11 に示すとおり 12 目 26 科 47 種の鳥類が確認された。

確認された鳥類は、陸鳥ではコゲラ、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ等樹林性の種や人工構造物の周辺ではツバメやイワツバメが多く飛翔するのが確認された（ツバメについては巣も複数確認された）。水鳥ではカモ類、カワウ、サギ類、チドリ類、シギ類等水辺に生息する種が出現したが、大部分は上空飛翔のものであった。

確認された種は留鳥が多く、夏鳥としてツバメやイワツバメの他、春季には渡去の遅れた冬鳥（キンクロハジロ、ツグミ）、旅鳥のキョウジョシギ、キアシシギも確認された。

表 9.2-11 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度		平成 26 年度			
				秋季	冬季	春季	夏季	初夏	秋季
1	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○					
2			マガモ	○					
3			カルガモ	○	○	○	○	○	○
4			オナガガモ	○	○				○
5			ホシハジロ	○	○				
6			キンクロハジロ	○	○	○			
7	カイツブリ目	カイツブリ科	ハジロカイツブリ		○				
8	ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	○	○	○
9	カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	○	○	○
10	ペリカン目	サギ科	アオサギ			○	○	○	○
11			ダイサギ				○	○	○
12			コサギ	○		○			○
13	ツル目	クイナ科	オオバン	○	○				○
14	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ				○		
15	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ					○	
16			コチドリ					○	
17			シロチドリ			○			
18		シギ科	キアシシギ			○			
19			イソシギ	○	○				○
20			キョウジョシギ			○			
21		カモメ科	ユリカモメ	○					
22			ウミネコ			○	○	○	○
23			カモメ	○					
24			セグロカモメ	○	○				
25	タカ目	タカ科	トビ	○					
26			ハイタカ	○	○				
27			ノスリ		○				
28	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ		○			○	○
29	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ						○
30	スズメ目	モズ科	モズ	○	○				
31		カラス科	オナガ	○	○	○		○	○
32			ハシボソガラス	○	○			○	○
33			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
34		シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	○		○	○
35		ツバメ科	ツバメ			○	○	○	
36			イワツバメ				○	○	
37		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○		○	○
38		ウグイス科	ウグイス	○					
39		メジロ科	メジロ	○	○			○	○
40		ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	○	○
41		ヒタキ科	ツグミ		○	○			
42			ジョウビタキ	○	○				
43		スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○	○
44		セキレイ科	ハクセキレイ	○	○		○	○	○
45		アトリ科	カワラヒワ	○	○	○	○	○	
46		ホオジロ科	アオジ	○					
47	(ハト目)	ハト科	カワラバト	○	○			○	○
計	12 目	26 科	47 種	31 種	27 種	19 種	14 種	22 種	22 種

b. 注目される種

確認された鳥類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される鳥類として抽出した結果、表 9.2-12 に示す 15 種が該当した。

注目される鳥類の生態及び確認状況は、表 9.2-13(1)～(3)に示すとおりである。







表 9.2-12 注目される鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	ペリカン目	サギ科	ダイサギ				VU
2			コサギ				VU
3	ツル目	クイナ科	オオバン				VU
4	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ				VU
5	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ				DD
6			コチドリ				VU
7			シロチドリ			VU	VU
8		シギ科	キアシシギ				VU
9			イソシギ				VU
10			キョウジョシギ				VU
11			タカ目	タカ科	トビ		
12	ハイタカ				NT	EN	
13	ノスリ					EN	
14	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ				EN
15	スズメ目	モズ科	モズ				VU
計	7 目	8 科	15 種	0 種	0 種	2 種	15 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

表 9.2-13(1) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ダイサギ 【分布】：本州では漂鳥。四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：水田、湿地、河川、湖沼、池、河口、干潟などの浅い水域で採食し、人やカラス類によるかく乱の少ない樹林で集団で営巣する。魚類や甲殻類、カエル類、昆虫類などを食べる。 【確認状況】：初夏季、夏季及び秋季に、上空を飛翔する個体や曙運河の人工構造物上で確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：コサギ 【分布】：本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：水田、河川、湖沼、干潟など浅い水辺で、採食し、人やカラス類によるかく乱の少ない樹林に集団で営巣し、休息する。魚類やカエル類、甲殻類や昆虫類などを食べる。 【確認状況】：春季、秋季に上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：オオバン 【分布】：北海道、本州（東北北部）では夏鳥。本州（東北南部以南）、四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：主にヨシなどが生育する湖沼、池、河川、水田などに生息し、水草の葉、茎、種子や昆虫類、貝類、甲殻類などを食べる。 【確認状況】：秋季及び冬季に、曙運河で採餌・休息する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ヒメアマツバメ 【分布】：本州（関東南部以西）、四国、九州で留鳥。 【形態】：主に平地から低山地の開けた場所に生息し、飛翔性昆虫類を食べる。コンクリートの建築物などで営巣する。イワツバメの巣を利用することが多い。 【確認状況】：夏季に、マリーナ南側上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：イカルチドリ 【分布】：北海道、本州、四国、九州で留鳥または漂鳥。 【形態】：砂礫地がある河川、湖沼、池、水田などに生息し、河川中・上流域の砂礫河原で営巣する。主に昆虫類を食べる。 【確認状況】：初夏季に調査範囲東側の荒地より地鳴きが確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：コチドリ 【分布】：北海道、本州、四国、九州では夏鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：河川敷、海岸の砂洲、造成地などの草の少ない砂礫地で繁殖する。主に小型のカニや底生動物、昆虫類を食べる。 【確認状況】：初夏季にグラウンド上で個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>




注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) による。

表 9.2-13(2) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：シロチドリ 【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で留鳥または漂鳥。 【形態】：海岸の砂洲や河川の中州などの裸地で営巣する。昆虫類、甲殻類、ゴカイ類などを食べる。 【確認状況】：春季に調査範囲の上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：キアシシギ 【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で旅鳥。 【形態】：干潟、河口、岩場、河川などに生息し、昆虫類や甲殻類などを食べる。 【確認状況】：春季に曙運河の人工構造物で個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：イソシギ 【分布】：北海道、本州（東北北部）では夏鳥。本州（東北南部以南）、四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：河川、湖沼、海岸、干潟などに生息し、昆虫類や甲殻類などを食べる。海岸の砂洲や河川の中州などの草地で営巣する。 【確認状況】：秋季、冬季に、曙運河の人工構造物上や、上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：キョウジョシギ 【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で旅鳥。 【形態】：海岸や河口の干潟などに生息し、浅い水域で昆虫類や甲殻類、貝類などを食べる。 【確認状況】：春季に、曙運河の人工構造物で個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：トビ 【分布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：海岸部や平地の、河川・池沼に多いが、高山にも生息する。樹林で繁殖し、主に死肉を食べるが、ネズミ類、ヘビ類、カエル類などの小動物を食べることもある。 【確認状況】：秋季調査において、上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ハイタカ 【分布】：北海道、本州、四国では留鳥または漂鳥。九州では冬鳥。 【形態】：平地から山地の樹林、耕作地、河川敷に生息し、営巣は普通、樹林内に行く。主にスズメ、シジュウカラなどの小鳥を食べる。 【確認状況】：秋季、冬季に、上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

表 9.2-13(3) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ノスリ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国では留鳥または漂鳥。九州では冬鳥。</p> <p>【形態】：山地の樹林で繁殖し、冬は広大な干拓地、河川敷、耕作地などで越冬する。主にネズミ類などの小動物を食べる。</p> <p>【確認状況】：冬季に、上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：チョウゲンボウ</p> <p>【分布】：北海道、本州（中部以東）では留鳥または漂鳥。本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の崖のほか、橋脚や煙突などの人工建造物で繁殖する。ネズミ類や小鳥、昆虫類を食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季に、曙運河の上空を飛翔する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：モズ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園などに生息し、昆虫類やミミズ類、両生・は虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季、冬季に、広葉樹林の枝で鳴く個体と、採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

(ウ) は虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-14 に示すとおり 1 目 3 科 3 種のは虫類が確認された。

調査範囲内の明るい草地や樹林環境ではニホントカゲ、ニホンカナヘビが確認され、遊歩道脇ではニホンヤモリが確認された。

表 9.2-14 は虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度		平成 26 年度		
				秋季	冬季	春季	初夏	夏季
1	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ				○	
2		トカゲ科	ニホントカゲ					○
3		カナヘビ科	ニホンカナヘビ			○	○	○
計	1 目	3 科	3 種	0 種	0 種	1 種	2 種	2 種

b. 注目される種

確認されたは虫類のうち、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 爬虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の掲載種を抽出した結果、表 9.2-15 に示す 3 種が該当した。

注目されるは虫類の生態及び確認状況は、表 9.2-16 に示すとおりである。

表 9.2-15 注目されるは虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ				VU
2		トカゲ科	ニホントカゲ				CR+EN
3		カナヘビ科	ニホンカナヘビ				VU
計	1 目	3 科	3 種	0 種	0 種	0 種	3 種

注) 選定基準

①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物




②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種

③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 爬虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種

④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種

CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類

表 9.2-16 注目されるは虫類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ニホンヤモリ</p> <p>【分布】：本州、四国、九州</p> <p>【形態】：体色は淡い灰色に暗褐色の斑紋があるが、温度などにより大きく変わる。体は平たく指先が扁平で、壁を垂直に登ったり、天井なども巧みに素早く動く。尾は自切する。脛がなく目を閉じることはない。夜行性でガ類など昆虫類、クモ類を食べる。古い時代の大陸からの移入種。</p> <p>【確認状況】：初夏季に、計画地外の人工構造物上で死体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ニホントカゲ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州</p> <p>【形態】：体鱗には光沢があり、オスの成体は頭部が発達し、繁殖期はのどや腹部がオレンジ色になる。オスは背面が茶褐色で体側に黒褐色の帯がある。メスは幼体の体色があせた感じで、幼体は背面が黒く黄白色の5本の縦縞が入り、尾は鮮やかなコバルトブルー。昼行性でクモ類、昆虫類、陸生甲殻類などを食べる肉食性。尾は自切する。</p> <p>【確認状況】：夏季に、計画地外の樹林内の伐木集積場で成体が確認された。</p>	 <p style="text-align: right;">出典：「レッドデータブック東京2013」</p>
<p>【種名】：ニホンカナヘビ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州</p> <p>【形態】：ニホントカゲに比べずっと細身で尾は長く全長の3分の2強。体色は背面が褐色、腹面は白または黄色。体側に白と暗褐色の縞がはしる。背面の鱗にはうね(キール)があり、ザラザラした感じ。幼体の体色は全体に暗く、特に尾部は顕著。昼行性でクモ類や昆虫類、ダンゴムシなど陸生甲殻類などを食べる肉食性。尾は自切する。</p> <p>【確認状況】：夏季に、計画地内の草地で成体が確認された。春季、初夏季には、計画地周辺の人工構造物上、遊歩道沿いで成体が確認された。</p>	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京2013(本土部)」(平成25年3月 東京都)による。

(エ) 両生類

a. 確認種

現地調査により、両生類は確認されなかった。

b. 注目される種

現地調査により、両生類の注目される種は確認されなかった。

(オ) 昆虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表9.2-17(1)～(4)に示すとおり10目94科289種の昆虫類が確認された。

夢の島公園全体はユーカリ等の植栽樹林が中心であるが、南側に道路及び鉄道と並行して樹林が形成されており、林床にウマノズグサが生育しているためジャコウアゲハが確認されたのが特徴的であった。その他、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、シロテンハナムグリやナガサキアゲハ、ウラナミシジミ、セグロアシナガバチ、コガタスズメバチ等、平地の人工的な樹林や花壇、草地を反映した昆虫が確認された。

表 9.2-17(1) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度	平成 26 年度				
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季	
1	トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	アジ [°] イトトンボ [°]					○	
2		ヤンマ科	キンヤンマ				○		
3		トンボ科	ショウジ [°] ヨウトンボ [°]		○	○			
4			シオカヲトンボ [°]		○	○			
5			ウスハ [°] キトンボ [°]				○		
6			ナツアカネ	○					
7			アキアカネ					○	
8	カマキリ目(蠶螂目)	カマキリ科	ハラビ [°] ロカマキリ	○			○		
9			オオカマキリ				○		
10	ハサミシ目(革翅目)	マルムネハサミシ科	ハマヘ [°] ハサミシ		○				
11			ヒゲ [°] シ [°] ロハサミシ		○				
12	ハ [°] ツ目(直翅目)	ツユムシ科	ツユムシ			○			
13			ヒメクダ [°] マキモト [°] キ					○	
14		キリキ [°] リス科	ホシササキ			○	○		
15		マツムシ科	ヒロハ [°] ネンタン			○			
16		カネタキ科	カネタキ	○				○	
17		ヒバ [°] リモト [°] キ科	マダ [°] ラス [°]					○	
18			ウスグ [°] モス [°]				○	○	
19			シハ [°] ス [°]					○	
20			ハ [°] ツタ科	ショウリヨウハ [°] ツタ				○	○
21			オンブ [°] ハ [°] ツタ科	オンブ [°] ハ [°] ツタ			○	○	
22		カメシ目(半翅目)	ウンカ科	ヒメトビ [°] ウンカ		○			
23				コブ [°] ウンカ			○		
24	アオハ [°] ハコ [°] ロモ科		アオハ [°] ハコ [°] ロモ				○	○	
25	セミ科		クマゼ [°] ミ				○		
26			アブ [°] ラゼ [°] ミ				○		
27			ミンシゼ [°] ミ				○		
28			ニニイゼ [°] ミ				○		
29	アワキムシ科		シロオヒ [°] アワキ	○					
30			ハマヘ [°] アワキ			○			
31	ヨコバ [°] イ科		クロミヤクイチモンシ [°] ヨコバ [°] イ					○	
32			サシ [°] ヨコバ [°] イ			○			
33			Pagaronia 属			○			
34			マダ [°] ラヨコバ [°] イ			○			
35						○			
36	サシガ [°] メ科		モモ [°] トビ [°] イロサシガ [°] メ			○			
37	ケンバ [°] イムシ科		アワタ [°] チリウケ [°] ンバ [°] イ			○	○		
38			タフ [°] ケンバ [°] イ			○			
39			ツツジ [°] ケンバ [°] イ			○		○	
40	カスミカメシ科		ナカグ [°] ロカスミカメ			○			
41			モモ [°] アハキ [°] カスミカメ			○			
42			ツマク [°] ロアオカスミカメ			○			
43			ツマク [°] ロハキ [°] カスミカメ			○			
44			ヨツボ [°] シカスミカメ				○		
45			ウスモンミト [°] リカスミカメ	○					
46			イネホ [°] リト [°] リカスミカメ			○			
47	ヘリカメシ科		ホオス [°] キカメシ			○			
48			ホリハリカメシ			○			
49			ホシハラヒ [°] ロヘリカメシ			○		○	
50			ツマキヘリカメシ			○			
51	ヒメヘリカメシ科		アカヒメヘリカメシ			○			
52			フ [°] チヒゲ [°] ヒメヘリカメシ			○	○		
53	イトカメシ科		イトカメシ			○			
54		ナカ [°] カメシ科	チヒ [°] ヒメヒラタナカ [°] カメシ			○			
55			ホリヒメヒラタナカ [°] カメシ			○			
56			ニッポ [°] ンコハ [°] ネナカ [°] カメシ			○			
57			ヒメオメナカ [°] カメシ			○		○	
58			オオモンシロナカ [°] カメシ			○			
59			ヒメナカ [°] カメシ			○	○		
60			ヒゲ [°] ナカ [°] カメシ			○	○		
61	ムラサキナカ [°] カメシ				○				
62	ツチカメシ科	ツチカメシ				○	○		
63	カメシ科	マルツチカメシ			○				
64		ウスカメシ	○		○				
65		フ [°] チヒゲ [°] カメシ			○				
66		マルシラホシカメシ			○				
67		ツヤアオカメシ	○						
68		エヒ [°] イロカメシ			○				
69		アカスシ [°] カメシ			○				
70		チャハ [°] ネアオカメシ			○	○			
71		マルカメシ科	マルカメシ	○	○	○	○	○	
72		アメンボ [°] 科	アメンボ [°]					○	
73	アブ [°] ラムシ科	アブ [°] ラムシ科	○						
74	ミス [°] ムシ科	エサキコムス [°] ムシ			○				
75	アミメカ [°] ロウ目(脈翅目)	ヨツボ [°] シクサカ [°] ロウ科	ヨツボ [°] シクサカ [°] ロウ					○	
76			ヤマトクサカ [°] ロウ	○	○	○		○	
77			カオマダ [°] ラクサカ [°] ロウ	○					

表 9.2-17(2) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況						
				平成 25 年度	平成 26 年度					
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季		
78	チョウ目 (鱗翅目)	スカシバガ科	オモモブトスカシバ			○				
79		ハマキガ科	チャノコカクモンハマキ				○			
80		イラガ科	キンケラスバ イラガ	○						
81		マダラガ科	ホタルガ			○				
82		セセリチョウ科	イモモン セセリ		○	○	○	○		
83			チャハ セセリ					○		
84		シシチョウ科	ルリシジミ			○	○			
85			ウラキ シシジミ					○		
86			ウラナシジミ	○				○		
87			ベニシジミ				○	○		
88			ムラサキツバメ					○		
89			ムラサキシジミ					○		
90			ヤマトシシミ本土亜種		○	○	○	○		
91		タテハチョウ科	ツマク ロヒョウモン		○					
92			ヒメアカタテハ				○			
93			ゴマダラチョウ	○	○		○			
94			キタテハ					○		
95			アカタテハ					○		
96		アゲハチョウ科	シジャコウアゲハ本土亜種		○	○	○			
97			アオシメアゲハ		○	○	○	○		
98			キアゲハ			○				
99			ナカサキアゲハ		○					
100			クロアゲハ本土亜種				○			
101			ナミアゲハ			○		○		
102		シロチョウ科	キタキチョウ			○		○		
103			モンシロチョウ	○	○	○		○		
104		ツバキ科	キアキメノメイガ			○				
105			モンキクロノメイガ		○		○			
106			ヒメシロノメイガ				○			
107			マニアカスカシノメイガ	○	○			○		
108			シロオビノメイガ					○		
109		メイガ科	アオフトメイガ			○				
110		シヤクガ科	コヨツメアオシヤク			○				
111			フタスジ オエダシヤク			○				
112		スズメガ科	ウンモンスズメ			○				
113			オオスカシバ					○		
114			ホシホリシヤク	○				○		
115		ヤガ科	ツメクサガ				○			
116			クロクモヤガ		○					
117			ソトウスグロアツバ		○					
118		ハエ目 (双翅目)	ガガシホ科	ホリカワクシヒゲガガシホ		○				
119				キイロツバガガシホ		○				
120			ユスリガ科	ユスリガ科	○					
121			ミスアブ科	ハラキシミスアブ		○				
122			ムシヒキアブ科	ナミカブリガムシヒキ		○				
123				シオヤアブ			○			
124			ツリアブ科	クロハネツリアブ			○	○		
125			ハナアブ科	ナカヒラタアブ		○				
126				クロヒラタアブ		○	○			
127				フタスジヒラタアブ		○				
128				ホソヒラタアブ	○	○	○	○	○	
129				キコシハナアブ	○				○	
130				シマハナアブ		○				
131				ナミホシヒラタアブ		○	○		○	
132				アシアブ トハナアブ	○	○			○	
133				ホソツバヒラタアブ	○					
134				ホソツバヒラタアブ		○				
135				シママヒラタアブ			○			
136				キアシママヒラタアブ			○			
137				オオハナアブ	○	○			○	
138				ホソヒメヒラタアブ		○	○		○	
139				キタヒメヒラタアブ		○				
140				ショウジョウハエ科	オウトリショウジョウハエ	○				
-					Drosophila 属	○				
141			ヤチハエ科	ヒゲナカヤチハエ					○	
142			クロハエ科	ホホグロオビキンハエ	○					
143				ツマク ロキンハエ	○		○		○	
144			メハエ科	ムネグロメハエ		○				
145			イハエ科	セマダライハエ	○					
146				チャハネヒメクロハエ	○					
147			コウチュウ目 (鞘翅目)	ナメシ科	セアカヒラタコ ミムシ		○	○		
148					ケウスコ モクムシ					○
149					アカアシマルガタコ モクムシ					○
150					コルリアトキリコ ミムシ					○
151					オオコ ミムシ				○	
152					オオヒラタコ ミムシ			○		

表 9.2-17(3) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度	平成 26 年度				
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季	
153	(コウチュウ目(鞘翅目))		ミト ^リ マメコ ^モ モクムシ		○				
154			ツヤマメコ ^モ モクムシ		○				
155			イツホシマメコ ^モ モクムシ		○				
156			マルガ ^タ ツヤヒラタコ ^ミ ムシ					○	
157			オオクワツヤヒラタコ ^ミ ムシ		○				
158			ハシヨウ科	トウキョウヒハシヨウ			○		
159			ガ ^ム シ科	ト ^ゲ バ ^コ マ ^フ ガ ^ム シ		○			
160			エンマシ科	ニセヒメナガ ^{エン} マムシ		○			
161			シテ ^ム シ科	オオヒラタシテ ^ム シ		○	○	○	
162			ハネカクシ科	ニセユミセシ ^ハ ネカクシ			○		
163				Philonthus 属			○		
164			クワガ ^タ ムシ科	クワガ ^タ			○		
165			コカ ^ネ ムシ科	アオト ^ウ カ ^ネ				○	
166				ヒメサクラコカ ^ネ			○		
167				ヒメカンショコカ ^ネ		○			
168				セマダ ^ラ コカ ^ネ			○		
169				ナミハナムケ ^リ		○			
170				コアオハナムケ ^リ		○		○	○
171		クロコカ ^ネ			○				
172		ヒメヒ ^ロ ウト ^コ カ ^ネ		○					
173		マルガ ^タ ヒ ^ロ ウト ^コ カ ^ネ				○			
174		クリイロコカ ^ネ		○					
175		ハラゲ ^ヒ ロウト ^コ カ ^ネ		○					
176		コフ ^{マル} エンマコカ ^ネ			○	○			
177		ツヤエンマコカ ^ネ		○	○				
178		マメコカ ^ネ			○	○			
179		シロテンハナムケ ^リ			○	○			
180		カナブン			○				
181	タマシ科	ヒシモンナガ ^タ ムシ		○					
182		マキキナガ ^タ ムシ			○				
183		ウケ ^イ スナガ ^タ ムシ		○					
184		ヒメヒラタタマシ		○					
185		クス ^ノ チビ ^タ ムシ			○				
186	コメツキムシ科	サビ ^キ コリ		○					
187		クシコメツキ			○	○			
188		クロクシコメツキ		○	○				
189		カントウツヤキミ ^ス キ ^リ コメツキ		○					
190		コハナコメツキ		○	○				
191	カワオ ^フ シムシ科	ヒメマルカワオ ^フ シムシ		○					
192	シバ ^ン ムシ科	ツツガ ^タ シバ ^ン ムシ			○	○			
193	テントウムシ科	ヒメアカホシテントウ							
194		ナナホシテントウ		○					
195		トホシテントウ			○				
196		ナミテントウ		○					
197		オオニシ ^{ユウ} ウヤホシテントウ		○	○				
198		フタホシテントウ			○				
199		キイロテントウ			○		○		
200		ダン ^タ ラテントウ		○					
201		ヒメカメノコテントウ			○				
202		クモガ ^タ テントウ		○			○		
203		クロツヤテントウ				○			
204	キスイムシ科	クロモンキスイ		○					
205	ネスイムシ科	トビ ^イ ロデ ^オ ネスイ			○				
206	ゲキスイ科	Epuraea 属		○					
207		アカマダ ^ラ ゲキスイ		○			○		
208		マルキマダ ^ラ ゲキスイ				○	○		
209	ホビヒラタムシ科	フタトゲ ^ホ ビヒラタムシ		○					
210	アリモ ^ト キ科	キアシクヒ ^ホ ソムシ		○	○		○		
211	ナカ ^ク チキムシ科	ビ ^ロ ウト ^ホ リナカ ^ク チキ			○				
212	コ ^ミ ムシ科	トビ ^イ ロクチキムシ		○	○				
213		スナコ ^ミ ムシタ ^マ シ				○			
214		ハムシタ ^マ シ			○				
215		ユミアシコ ^ミ ムシタ ^マ シ				○			
216		コマルムネコ ^ミ ムシタ ^マ シ			○				
217	カミキリムシ科	ヨツシ ^ト ラカミキリ				○			
218		ナカ ^コ マ ^フ カミキリ				○			
219		ラミーカミキリ		○					
220	ハムシ科	アカハ ^ナ カミナリハムシ		○					
221		ヒメテントウ ^ノ ハムシ			○				
222		クロウリハムシ		○					
223		アオハ ^ネ サハハムシ		○					
224		チキハ ^ラ マゾ ^ウ ムシ			○				
225		アス ^キ マゾ ^ウ ムシ		○					
226		ヒメト ^ウ ガ ^ネ ト ^ヒ ハムシ		○					
227		イモサハハムシ		○					
228		カサハラハムシ				○			
229		キハ ^ラ ルリクヒ ^ホ ソハムシ		○		○			
230		アカクヒ ^ホ ソハムシ			○				

表 9.2-17(4) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度		平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季	
231	(コウチュウ目(鞘翅目))	(ハムシ科)	クロホシトビハムシ	○	○			○	
232			オオハコトビハムシ			○			
233			ヨモギトビハムシ		○				
234			ナトビハムシ		○				
235			サンゴジュハムシ				○		
236			エノキハムシ			○			
237			トウガネサルハムシ		○	○			
238			ホトマタゾウハムシ		○			○	
239			チビメナカゾウハムシ		○	○			
240			ヒレアミキクイゾウハムシ			○			
241		コフキゾウハムシ		○	○				
242		アルファルファタコゾウハムシ		○					
243		ケブカクチゾウハムシ		○					
244		チビヒョウタンゾウハムシ		○					
245		コレノミノハムシ		○					
246		スグリゾウハムシ		○	○		○		
247		サビヒョウタンゾウハムシ		○					
248		ケチビコフキゾウハムシ			○				
249		チビコフキゾウハムシ		○					
250		ケツチゾウハムシ		○					
251		オサゾウハムシ科	スキキイサビゾウハムシ		○				
252		キクイムシ科	キクイムシ科		○				
253		ハチ目(膜翅目)	ミツハチ科	ルリチュウレンシ			○		
254			ハバチ科	ニホカガハラハチ					○
255			アシフトコハチ科	オニアシフトコハチ			○		
256	アリ科		アシナガアリ		○	○		○	○
257			クロオアリ			○	○	○	○
258			ウメマツオアリ			○	○		
259			ハリガトシリアゲアリ			○			
260			クロヤマアリ		○	○	○	○	○
261			トビイロケアリ			○	○	○	
262			ヒゲナカケアリ		○				
263			アメイロアリ		○	○		○	
264			オオスアリ			○			
265			アミアリ			○	○		○
266	トビイロシワアリ				○			○	
267	トコハチ科		オオフタオビトコハチ				○	○	
268			ミカトトクリハチ					○	
269			ミカトトコハチ				○		
270			スズハチ					○	
271			キオビチビトコハチ		○				
272	スズメハチ科		ムモンホリアシナガハチ		○				
273			セグロアシナガハチ		○	○		○	
274			コカタスズメハチ			○			○
275			ヒメスズメハチ				○		
276			オオスズメハチ						○
277	ツチハチ科		ヒメハラナガツチハチ			○	○	○	
278			キンケハラナガツチハチ					○	
279			シロオビハラナガツチハチ			○			
280			キオビツチハチ		○	○			
281	フシタカハチ科		ナミツチカガリ		○	○			
282	アナハチ科		ヤマトトリシカハチ			○			
283			コクロアナハチ			○			
284	ミツハチ科		セイヨウミツハチ		○	○		○	
285			キムネクマハチ			○	○	○	
286	コハナハチ科		アカガネコハナハチ		○	○		○	
287	ハキリハチ科		オオハキリハチ					○	
288			ツルガハキリハチ			○			
289	ヒメハチ科		キオビコシワトビメハチ		○				
計	10 目		94 科	289 種	40 種	141 種	114 種	59 種	74 種

b. 注目される種

確認された昆虫類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.2-18 に示す 2 種が該当した。

注目される昆虫類の生態及び確認状況は、表 9.2-19 に示すとおりである。



表 9.2-18 注目される昆虫類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	ハッパ目	マツシ科	ヒロハネシタ				DD
2	コウチュウ目	コガネシ科	ナミハムガリ				CR
計	2 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種

注) 選定基準

- ① 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③ 「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
- ④ 「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
CR：絶滅危惧 I A 類 DD：情報不足

表 9.2-19 注目される昆虫類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ヒロバネカンタン</p> <p>【分布】：本州、四国、九州、対馬、南西諸島</p> <p>【形態】：淡緑色で、腹面は黒くならない。カンタンに似るが、オスの前翅はやや幅広く、メスの産卵器はやや長め。空地、畑地、荒地、海浜などに成立した乾性草地に生息する。</p> <p>【確認状況】：初夏季に、計画地外の高茎草地で個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ナミハナムグリ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州、対馬</p> <p>【形態】：背面は緑黄色の被覆物に覆われつやはない。頭楯の前縁は縁どられ、中央はゆるやかに湾入する。前胸背および上翅は黄褐色の長毛をやや密に装い、上翅の縦隆線は明瞭。成虫は各種の花に集まる。</p> <p>【確認状況】：春季に、計画地外のイボタに訪花する個体が確認された。</p>	<p>出典：「レッドデータブック東京2013」</p> 

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京2013 (本土部)」(平成25年3月 東京都) による。

(カ) クモ類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-20 に示すとおり 1 目 11 科 32 種のクモ類が確認された。

造網性クモ類は、ゴミグモやチュウガタシロカネグモ等、都市部でも見られる種類が多く、人工的な公園の環境を反映して、ヤハズフクログモ、チュウカカニグモ等の待ち伏せタイプやキンイロエビグモ、マミジロハエトリ等の徘徊性クモ類等、広く観察される種が多く見られた。

表 9.2-20 クモ類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度		平成 26 年度		
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季
1	クモ目	トタテグモ科	キンノウエトタテグモ			○		
2		ヒメグモ科	ハイイロヒメグモ	○				
3			オオヒメグモ	○				
4			カニミジグモ	○				
5		アシナガグモ科	チュウガタシロカネグモ		○			
-			Leucauge 属	○				
6			ジョロウグモ	○				
7		コガネグモ科	Araneus 属		○			
8			ナガコガネグモ			○	○	
-			Argiope 属					○
9			ギンメッキゴミグモ		○			
10			ゴミグモ	○	○			
11			ドヨウオニグモ		○			
-			Neoscona 属		○			
12		ササグモ科	ササグモ	○	○			
-			Oxyopes 属		○			○
13		ハグモ科	ネコハグモ	○				
14		ウエムラグモ科	イタチグモ			○		
15		フクログモ科	マダラフクログモ					○
16			ヤハズフクログモ			○		
-			Clubiona 属		○			
17		エビグモ科	キンイロエビグモ	○	○			
18		カニグモ科	ハナグモ	○				○
19			マツモトオチバカニグモ			○		
20			ワカバグモ	○				
21			アズチグモ	○				
22			セマルトラフカニグモ	○		○		
23			チュウカカニグモ			○		
24			ヨコフカニグモ			○		
-			Xysticus 属		○	○		○
25		ハエトリグモ科	カタオカハエトリ		○			
26			マミジロハエトリ	○	○			
-		Evarcha 属					○	
27		ヤガタアリグモ					○	
28		ヤサアリグモ		○				
29		アリグモ		○				
30		カラスハエトリ		○				
-		Rhene 属	○					
31		アオオビハエトリ		○				
32		シラホシコグチャハエトリ			○			
-		ハエトリグモ科			○		○	
計	1 目	11 科	32 種	15 種	15 種	9 種	1 種	7 種

b. 注目される種

確認されたクモ類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト クモ類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種）を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.2-21 に示す 2 種が該当した。

注目されるクモ類の生態及び確認状況は、表 9.2-22 に示すとおりである。



表 9.2-21 注目されるクモ類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	クモ目	トタテグモ科	キシノウエトタテグモ			NT	VU
2		カニグモ科	ヨコフカニグモ				NT
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	1 種	2 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト クモ類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
NT:準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

表 9.2-22 注目されるクモ類の生態及び確認状況

<p>【種名】：キシノウエトタテグモ 【分布】：本州、四国、九州 【形態】：前体は黒褐色で歩脚はやや赤みを帯びる。腹部は紫褐色、褐色あるいは黒褐色。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8 眼、3 爪を有し、書肺は 2 対。上顎は強大で馬鋏を有し、下顎に多数の歯状突起を備える。前内疣の基部はやや接近する。地中に比較的短い管状住居を作り、入り口に扉をつける。 【確認状況】：初夏季に、計画地外のマテバシイの林内に設置したベイトトラップで個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ヨコフカニグモ 【分布】：北海道、本州、九州 【形態】：雌の背甲は淡褐色で両側に黒褐色の縦条がある。腹部は褐色の地に白い線条や黒斑がある。雄は初期には雌と同様の色彩斑紋をしているが、時間とともに黒くなる。狩猟性で網を張らない。 【確認状況】：初夏季に、計画地外の落葉広葉樹林の林床で個体が確認された。</p>	

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

地形の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 2)地形・地質の状況」(p.29 参照)に示したとおりである。計画地は沖積低地に位置し、東京湾を埋め立てて造成された人工地盤の区域となっている。計画地及びその周辺の地盤は、東京層や関東ローム層からなる洪積層で形成され、標高は地盤面が T. P. +4m 程度の平坦な地形である。

地質の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 2)地形・地質の状況」(p.29 参照)に示したとおりである。計画地及びその周辺は、上総層群を基盤として、江戸川層、東京礫層、本郷層、七号地層が堆積し、表層付近に有楽町層が堆積し、その上位に埋立層が存在する。また、計画地及びその周辺の表層は、廃棄物の埋め立てにより形成されており、最上位は落葉等による腐植層、表層土及び覆土が存在する。

イ. 植生等の状況

植生等の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 5)植生の状況」(p.36 参照)に示したとおりである。計画地は主に「ゴルフ場・芝地」であり、夢の島公園は「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」に区分されている。また、夢の島公園の西側に位置する総合運動場には「ゴルフ場・芝地」が広がっている。夢の島公園の東側は工場地帯であり、夢の島大橋の北側及び一般国道 357 号(湾岸道路)の南側は「市街地」となっている。

現地調査結果によると、計画地内は円形広場にシバ群落が広がり、これを囲むように常緑広葉樹、落葉広葉樹の植栽が広がっている。計画地の南側は落葉広葉樹や混交林のまとまった植栽樹林が広がり、駐車場を挟んで一般国道 357 号(湾岸道路)沿いには帯状に常緑針葉樹と常緑広葉樹の植栽が広がる。また、計画地の北側には夢の島熱帯植物館、東側には Bumb 東京スポーツ文化館と新江東清掃工場があり、人工構造物となっている。

ウ. 大気環境

計画地周辺の大気汚染常時監視測定局における平成 26 年度の二酸化窒素、二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、微小粒子状物質、ダイオキシン類及び空間線量率の測定結果は、表 9.2-23～28 に示すとおりである。

二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は、一般局で 0.043ppm～0.046ppm、自排局で 0.051ppm であり、全地点において環境基準を達成していた。

二酸化硫黄の日平均値の 2%除外値は、一般局で 0.006ppm であり、環境基準を達成していた。

一酸化炭素の日平均値の 2%除外値は、自排局で 0.7ppm であり、環境基準を達成していた。

浮遊粒子状物質の日平均値の年間 2%除外値は、一般局で 0.054mg/m³～0.061mg/m³、自排局で 0.056mg/m³ であり、全地点において環境基準を達成していた。

光化学オキシダントの昼間の 1 時間値は、一般局の 2 地点でそれぞれ 0.120ppm、0.138ppm であり、いずれの地点も環境基準を達成していなかった。

微小粒子状物質の年平均値は一般局で 15.2 μg/m³、自排局で 16.8 μg/m³、日平均値の 98%値は一般局で 36.3 μg/m³、自排局で 38.5 μg/m³ であり、いずれの地点も環境基準を達成していなかった。

気象の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4) 調査結果 6) 気象の状況」(p.39 参照) に示したとおりである。計画地周辺の東京管区气象台における年間降水量は 1,528.8mm、年平均気温の平年値(昭和 56 年～平成 22 年)は 15.4℃である。

表 9.2-23 大気汚染常時監視測定局測定結果(二酸化窒素)

区分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値の 年間 98% 値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	江戸川区南葛西 測定局	0.020	0.044	○	1 時間値の 1 日 平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までの ゾーン内又は それ以下であ ること。
	No. 2	江東区豊洲 測定局	0.026	0.046	○	
	No. 3	江東区東陽 測定局	0.021	0.043	○	
自動車排出 ガス測定局	No. 4	三ツ目通り辰巳 測定局	0.029	0.051	○	

注 1) 測定値は、平成 26 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p. 48 参照) に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 27 年 10 月 22 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「大気汚染常時測定」(平成 27 年 10 月 22 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-24 大気汚染常時監視測定局測定結果(二酸化硫黄)

区分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	江戸川区南葛西 測定局	—	—	—	1 時間値の 1 日 平均値が 0.04ppm 以下で あり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下で あること。
	No. 2	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 3	江東区東陽 測定局	0.002	0.006	○	
自動車排出 ガス測定局	No. 4	三ツ目通り辰巳 測定局	—	—	—	

注 1) 測定値は、平成 26 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p. 48 参照) に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 27 年 10 月 22 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「大気汚染常時測定」(平成 27 年 10 月 22 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-25 大気汚染常時監視測定局測定結果(一酸化炭素)

区分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	江戸川区南葛西 測定局	—	—	—	1時間値の1日 平均値が10ppm 以下であり、かつ、 1時間値の 8時間平均値が 20ppm以下であ ること。
	No. 2	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 3	江東区東陽 測定局	—	—	—	
自動車排出 ガス測定局	No. 4	三ツ目通り辰巳 測定局	0.4	0.7	○	

注1) 測定値は、平成26年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図9.2-2(p. 48参照)に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成27年10月22日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「大気汚染常時測定」(平成27年10月22日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-26 大気汚染常時監視測定局測定結果(浮遊粒子状物質)

区分	地点番号	測定局名	年平均値 (mg/m ³)	日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	江戸川区南葛西 測定局	0.024	0.054	○	1時間値の1日 平均値が 0.10mg/m ³ 以下 であり、かつ、 1時間値が 0.20mg/m ³ 以下 であること。
	No. 2	江東区豊洲 測定局	0.022	0.060	○	
	No. 3	江東区東陽 測定局	0.022	0.061	○	
自動車排出 ガス測定局	No. 4	三ツ目通り辰巳 測定局	0.020	0.056	○	

注1) 測定値は、平成26年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図9.2-2(p. 48参照)に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成27年10月22日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「大気汚染常時測定」(平成27年10月22日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.1-27 大気汚染常時監視測定局測定結果(光化学オキシダント)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	昼間の1時間 値の最高値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	江戸川区南葛西 測定局	0.029	0.120	×	1 時間値が 0.06ppm以下で あること。
	No. 2	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 3	江東区東陽 測定局	0.030	0.138	×	
自動車排出 ガス測定局	No. 4	三ツ目通り辰巳 測定局	—	—	—	

注 1) 測定値は、平成 26 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、短期的評価による。(×：非達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2(p. 48 参照)に対応する

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 27 年 10 月 22 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「大気汚染常時測定」(平成 27 年 10 月 22 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.1-28 大気汚染常時監視測定局測定結果(PM2.5)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値の 年間 98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	江戸川区南葛西 測定局	15.2	36.3	×	1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下 であり、かつ、 1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下 であること。
	No. 2	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 3	江東区東陽 測定局	—	—	—	
自動車排出 ガス測定局	No. 4	三ツ目通り辰巳 測定局	16.8	38.5	×	

注 1) 測定値は、平成 26 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(×：非達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2(p. 48 参照)に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 27 年 10 月 22 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「大気汚染常時測定」(平成 27 年 10 月 22 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

エ. 地域社会とのつながり

計画地周辺は夢の島公園であり、公園内には夢の島熱帯植物館、BumB 東京スポーツ文化館等の施設があるほか、陸上競技場や円形広場を中心として都市部に整備された緑地が広がっている。公園内は、散歩、ジョギング、広場遊戯や休息等の多数の市民利用があり、花見等四季折々の植物や動物を身近に感じることのできる場となっている。また、北側の砂町運河沿いには夢の島マリーナにボートやヨットが多数係留され、都市部における親水利用を身近に感じることのできる場となっている。

3) 生態系の状況

動植物の現地調査結果を基に、計画地及びその周辺における生態系の機能や構成要素、食物連鎖による生態系構成要素は、表 9.2-29 に示すとおりである。

計画地及びその周辺は、生産者である植生の状況から生態系の機能として、樹林環境、草地環境、市街地等の3区分に分類される。これらの環境区分で見られる陸上植物、陸上動物について、食物連鎖による生物の相互の関係を整理し、図 9.2-3 に整理した。

生産者としては、樹林環境ではケヤキ、クロマツ、スダジイ、マテバシイ、クスノキ、タブノキ等の植栽樹林、草地環境ではメヒシバ、エノコログサ、シバ、ドクダミ、ハイキンポウゲ等の草本群落、市街地等ではクロマツ、サツキ、ユーカリ等があげられる。

生産者である植物の葉や茎、果実、種子等を採食する下位消費者としては、バッタ目、コウチュウ目、ハエ目、チョウ目等の昆虫類、キジバト等の植食性鳥類があげられる。

下位消費者である昆虫類等を捕食する中位消費者としては、ヒナコウモリ科の哺乳類、コゲラ、オナガ、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ、ヒバリ、ムクドリ、ツバメ等の鳥類のほか、は虫類のニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビがあげられる。

下位から中位消費者を捕食する上位消費者としては、小型哺乳類や昆虫類等を捕食するモズ等の鳥類、雑食性のハシブトガラス等のほか、雑食性のハクビシンがあげられる。

食物連鎖の最も上位に位置する最上位消費者としては、行動圏が広く小型鳥類や昆虫類を捕食するハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウの猛禽類があげられる。

表 9.2-29 環境区別に見る生態系の状況

環境区分		樹林環境	草地環境	市街地等
共通する環境要素		<p>計画地及びその周辺は、沖積低地に位置し埋立てにより平坦化された人工地盤の区域となっている。計画地周辺の標高は約4mである。</p> <p>上総層群を基盤として、その上位に江戸川層、東京礫層、七号地層が堆積し、表層付近には有楽町層が堆積し、その上位に埋立層が存在する。また、計画地及びその周辺の表層は、廃棄物の埋め立てにより形成されており、最上位は落葉等による腐植層、表層土及び覆土が存在する。</p>		
環境区別の状況		<p>樹林環境は、計画地内では植栽されたケヤキ、マテバシイが該当する。計画地周辺では、公園内に常緑広葉樹、落葉広葉樹等が広く植栽されている。</p> <p>主な植生は、道路脇にクロマツ等が植栽されており、ケヤキ、スダジイ、マテバシイ、クスノキ、タブノキ等の植栽樹林群が分布する。</p> <p>主な動物相は樹林環境に依存するコゲラ、シジュウカラ等の鳥類、コウチュウ目、セミ目等の昆虫類、ハクビシン等の中型哺乳類が生息する。</p>	<p>草地環境は、計画地内の中央の円形広場にシバ草が分布する。また、計画地の西側に位置する陸上競技場にシバ草が存在する。</p> <p>主な植生は、メヒシバ、エノコログサ、シバ、ドクダミ、ハイキンボウゲ等の草本が見られる。</p> <p>主な動物相は、草地環境に依存するムクドリ等の鳥類、ニホンカナヘビ等のは虫類のほか、ヒロバネカントタンやウラナミシジミ等の昆虫類が生息する。</p>	<p>計画地及びその周辺は、公園等を除くと供給処理施設、倉庫・運輸関係施設、事務所建築物等の混合用途の市街地が形成されている。</p> <p>市街地は主に人工構造物で占められているが、道路沿いの街路樹等の植生が見られる。</p> <p>主な動物相は、ヒナコウモリ科のねぐら利用、トンボ類やハチ類の昆虫類やハシブトガラス、スズメ等の鳥類の利用が見られる。</p>
生態系構成要素	最上位消費者	鳥類：ハイタカ、ノスリ	鳥類：ノスリ、チョウゲンボウ	鳥類：チョウゲンボウ
	上位消費者	哺乳類：ハクビシン 鳥類：モズ	哺乳類：ハクビシン 鳥類：モズ、ハシブトガラス	哺乳類：ハクビシン 鳥類：ハシブトガラス
	中位消費者	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥類：コゲラ、オナガ、シジュウカラ等 は虫類：ニホンヤモリ クモ類：キシノウエトタテグモ、ゴミグモ等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥類：ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリ等 は虫類：ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ クモ類：ハナグモ、ヨコフカニグモ、マミジロハエトリ等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥類：ツバメ、スズメ等 は虫類：ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ クモ類：キンイロエビグモ等
	下位消費者	鳥類：キジバト等 昆虫類：クマゼミ、アブラゼミ、コクワガタ、サビキコリ等	昆虫類：ヒロバネカントタン、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、ウラナミシジミ等	昆虫類：シオカラトンボ、セグロアシナガバチ等
	生産者	植物：ケヤキ、クロマツ、スダジイ、マテバシイ、クスノキ、タブノキ等	植物：メヒシバ、エノコログサ、シバ、ドクダミ、ハイキンボウゲ等	植物：クロマツ、サツキ、ユーカリ等

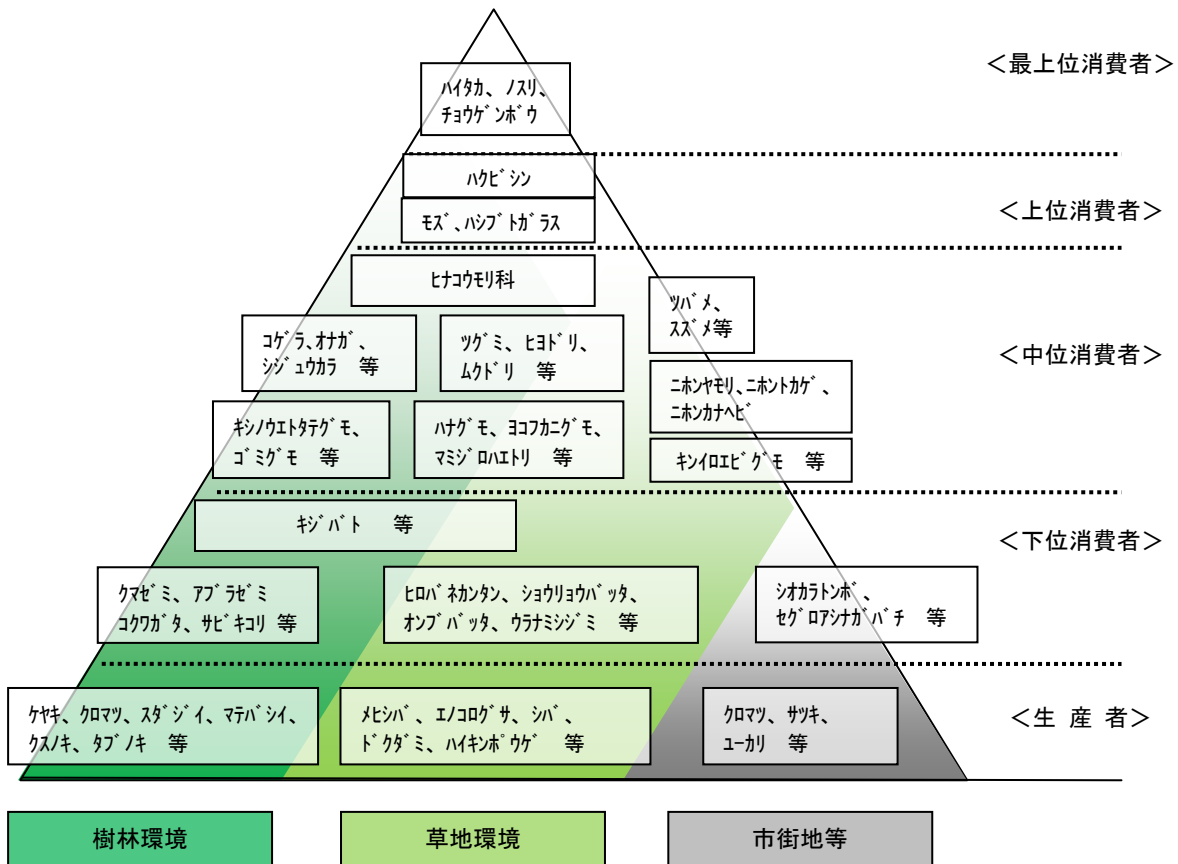


図 9.2-3 食物連鎖に注視した生物相の階層構造

4) 土地利用の状況

土地利用の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 4)土地利用の状況」(P.39 参照)に示したとおりである。計画地の土地利用は公園・運動場等となっている。また、計画地周辺の土地利用は、供給処理施設、倉庫・運輸関係施設、事務所建築物や教育文化施設等の混合用途の市街地となっている。

5) 法令等による基準等

生物・生態系に関する法令等については、表 9.2-30(1)及び(2)に示すとおりである。

表 9.2-30(1) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号)	<p>(文化財の定義)</p> <p>第二条</p> <p>四 貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの（以下「記念物」という。）</p> <p>(現状変更等の制限及び原状回復の命令)</p> <p>第二百二十五条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。</p>
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、野生動植物が、生態系の重要な構成要素であるだけでなく、自然環境の重要な一部として人類の豊かな生活に欠かすことのできないものであることに鑑み、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより、生物の多様性を確保するとともに、良好な自然環境を保全し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。</p> <p>(責務)</p> <p>第二条 国は、野生動植物の種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）が置かれている状況を常に把握し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する科学的知見の充実を図るとともに、その種の保存のための総合的な施策を策定し、及び実施するものとする。</p> <p>2 地方公共団体は、その区域内の自然的社会的諸条件に応じて、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存のための施策を策定し、及び実施するよう努めるものとする。</p> <p>3 国民は、前二項の国及び地方公共団体が行う施策に協力する等絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に寄与するように努めなければならない。</p> <p>(捕獲等の禁止)</p> <p>第九条 国内希少野生動植物種及び緊急指定種（以下この節及び第五十四条第二項において「国内希少野生動植物種等」という。）の生きている個体は、捕獲、採取、殺傷又は損傷（以下「捕獲等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等をする場合</p> <p>二 生計の維持のため特に必要があり、かつ、種の保存に支障を及ぼすおそれのない場合として環境省令で定める場合</p> <p>三 人の生命又は身体の保護その他の環境省令で定めるやむを得ない事由がある場合</p>
鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 (平成 14 年法律第 88 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するとともに、猟具の使用に係る危険を予防することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化を図り、もって生物の多様性の確保（生態系の保護を含む。以下同じ。）、生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、自然環境の恵沢を享受できる国民生活の確保及び地域社会の健全な発展に資することを目的とする。</p> <p>(鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の禁止)</p> <p>第八条 鳥獣及び鳥類の卵は、捕獲等又は採取等（採取又は損傷をいう。以下同じ。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等又は採取等をするとき。</p> <p>二 第十一条第一項の規定により狩猟鳥獣の捕獲等をするとき。</p> <p>三 第十三条第一項の規定により同項に規定する鳥獣又は鳥類の卵の捕獲等又は採取等をするとき。</p>

表 9.2-30(2) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年法律第 78 号)	(目的) 第一条 この法律は、特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬（以下「飼養等」という。）、輸入その他の取扱いを規制するとともに、国等による特定外来生物の防除等の措置を講ずることにより、特定外来生物による生態系等に係る被害を防止し、もって生物の多様性の確保、人の生命及び身体の保護並びに農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とする。 (飼養等の禁止) 第四条 特定外来生物は、飼養等をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る飼養等をする場合 二 次章の規定による防除に係る捕獲等その他主務省令で定めるやむを得ない事由がある場合 (放出等の禁止) 第九条 飼養等、輸入又は譲渡し等に係る特定外来生物は、当該特定外来生物に係る特定飼養等施設の外で放出、植栽又はは種（以下「放出等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る放出等をする場合 二 次章の規定による防除に係る放出等をする場合

6) 東京都等の計画等の状況

生物・生態系に関する東京都等の計画等については、表 9.2-31 に示すとおりである。

表 9.2-31 生物・生態系に関する計画等

関係計画等	目標・施策等
第 11 次鳥獣保護管理事業計画 (平成 27 年 3 月 東京都)	・人と野生鳥獣との共生の確保及び生物多様性の保全を基本として、野生鳥獣を適切に保護及び管理することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下「法」という。）第 4 条第 1 項の目的を達成するため、国の定める「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」に基づき、東京都の地域事情を勘案して、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」を定める。 第一 計画の期間 第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項 第三 鳥獣の人工増殖に関する事項 第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項 第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項 第六 特定計画に関する事項 第七 鳥獣の生息状況の調査に関する事項 第八 鳥獣保護管理事業の実施体制に関する事項 第九 その他
植栽時における在来種選定ガイドライン (平成 26 年 5 月 東京都)	・東京都は、緑の「量」の確保に加え、生態系への配慮など緑の「質」を高める施策を進めており、その地域に自然に分布している植物（以下「在来種」という。）を増やすことで、在来の生きものの生息場所を拡大する取組を行っている。本ガイドラインは、都民や事業者が緑化をする際に参考となるものとして作成されている。

9.2.2 予測

(1) 予測事項

予測事項は以下に示すとおりとした。

- 1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
- 2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
- 3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度
- 4) 生態系の変化の内容及びその程度

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、2020年東京大会の実施に伴う建設工事等での改変や施設撤去後の現状回復等において、生物・生態系に変化が生じる又は生じていると思われる時点とし、大会開催前、大会開催中、大会開催後のそれぞれ代表的な時点又は期間のうち、大会開催前とした。

(3) 予測地域

予測地域は、計画地及びその周辺地域とした。

(4) 予測手法

予測手法は、2020年東京大会の実施計画を基に、生物・生態系の変化の程度を把握して予測する方法とした。

(5) 予測結果

1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の常緑広葉樹、落葉広葉樹の植栽樹群やシバ群落の植物の生育地が改変される。なお、現地調査の結果、計画地内に注目される種は生育していない。

計画地周辺には、夢の島公園内に西側の陸上競技場にまとまったシバ群落があるほか、計画地の周辺には落葉広葉樹、常緑広葉樹の植栽が広がる。公園南側には駐車場に隣接して、常緑広葉樹と落葉針葉樹の植栽が広がっていることから、周辺地域も含めた植物相及び植物群落は維持されると予測する。また、事業の実施に当たっては、計画地内の落葉広葉樹（ケヤキ、サクラ類、トチノキ等）の高木を園内計画地南側の外来種の常緑広葉樹（トウネズミモチ）の生育箇所に移植する計画としている。

2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、樹林や草地を主たる生息地とする鳥類のムクドリ、は虫類のニホンカナヘビ、バッタ目、コウチュウ目、ハエ目等の昆虫類や移動性の低い土壌動物等の生息地が改変される。また、現地調査の結果、注目されるは虫類のニホンカナヘビが確認されており、この生息地が改変される。

計画地周辺には、夢の島公園内に計画地と同様の草地環境や樹木が広く残存する。確認された鳥類、は虫類、昆虫類、クモ類の注目される種は計画地周辺で確認されており、計画地内に生息個体についても計画地周辺に移動するものと予測する。

3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる草地環境が減少し、樹木等が伐採されるため、周辺の植物群落の生育環境と、移動性の低い動物相及び動物群集(昆虫類の幼虫、土壌動物等)の生息環境が変化するおそれがあると予測する。

計画地周辺には、夢の島公園内に西側の陸上競技場にまとまったシバ群落があるほか、計画地の周辺には落葉広葉樹、常緑広葉樹の植栽が広がる。公園南側には駐車場に隣接して、常緑広葉樹と落葉針葉樹の植栽が広がっている。事業の実施に当たっては、計画地内に樹木による新たな緑化は創出しないが、フィールドには約 17,000m²の張芝を行う計画としている。また、計画地内の落葉広葉樹(ケヤキ、サクラ類、トチノキ等)のうち、樹木診断等により移植すると判断した高木約 40 本を選定し、園内計画地南側の外来種の常緑広葉樹(トウネズミモチ)の生育箇所に移植する計画としていることから、周辺地域も含めた動植物の生育・生息環境は維持されるものと考えられる。

4) 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の草地環境が減少し、樹木等が伐採されるため、生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に係る生育・生息環境が変化するおそれがあると予測する。

計画地周辺には、夢の島公園内に西側にまとまったシバ群落があるほか、計画地の周辺には落葉広葉樹、常緑広葉樹の植栽が広がる。公園南側には駐車場に隣接して、常緑広葉樹と落葉針葉樹の植栽が広がっている。事業の実施に当たっては、計画地内に樹木による新たな緑化は行わないが、フィールドには約 17,000m²の張芝を行う計画としている。また、計画地内の落葉広葉樹(ケヤキ、サクラ類、トチノキ等)の高木を園内計画地南側の外来種の常緑広葉樹(トウネズミモチ)の生育箇所に移植する計画としていることから、周辺地域も含めた生態系は維持されるものと考えられる。

9.2.3 ミティゲーション

(1) 予測に反映した措置

- ・計画地内に生育する落葉広葉樹(ケヤキ、サクラ類、トチノキ等)のうち、樹木診断等により移植すると判断した高木約 40 本を選定し、園内計画地南側の外来種の常緑広葉樹(トウネズミモチ)の生育箇所に移植する計画としている。
- ・フィールドには約 17,000m²の張芝を行う計画としている。

(2) 予測に反映しなかった措置

- ・予選会場を円形広場に配置し、公園内の既存樹木への影響を低減する計画としている。
- ・一部の既存樹木は、事前に根回しを行ったうえで移植する。

9.2.4 評価

(1) 評価の指標

評価の指標は、生物・生態系の現況とした。

(2) 評価の結果

事業の実施により、計画地内の常緑広葉樹、落葉広葉樹の植栽樹林群の伐採、草地や土壌の改変が行われ、動植物の生育・生息環境が減少するが、予選会場を円形広場に配置し、公園内の既存樹木への影響を低減する計画としている。また、計画地周辺の生物の生育・生息環境の改変は生じない。

事業の実施に当たっては、計画地内に新たな樹木による緑化は行わないが、事業の実施前と同様に新たに約 17,000m²の張芝を行う計画としている。また、計画地内の落葉広葉樹（ケヤキ、サクラ類、トチノキ等）のうち樹木診断等により移植すると判断した高木約 40 本を、園内計画地南側の外来種の常緑広葉樹（トウネズミモチ）の生育箇所に移植する計画であり、外来種対策に寄与するとともに、公園内における動植物の生育・生息環境の改変は低減され则认为る。

以上のことから、計画地における生物の生育・生息環境は一部減少するものの、計画地周辺も含めた公園内の生物・生態系の現況は維持され、評価の指標は満足するもの则认为る。